

2024 年 8 月 29 日
双日株式会社

双日、アフリカなどで農業 DX を推進する Degas に出資

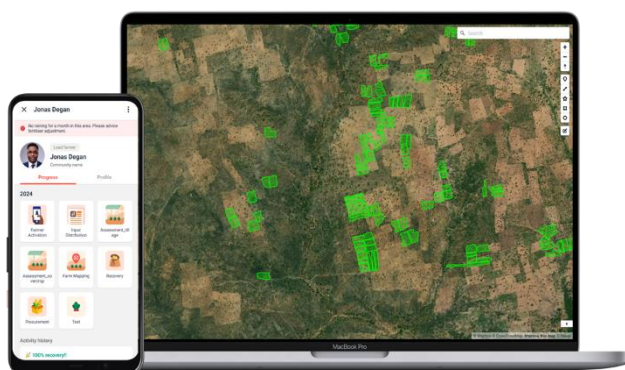
～さくらインターネットの GPU クラウドサービスを利用し、AI による衛星画像の活用を共同研究～

双日株式会社(以下「双日」)は、アフリカをはじめとする途上国で農業のデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進する^{デガス}Degas株式会社(以下「Degas」)に出資しました。また、両社は、Degas が開発した衛星画像の分析に特化した生成 AI 基盤モデル(以下「地理空間基盤モデル」)をタイ王国のアグリ(農業)プラットフォーム事業に活用するための共同研究を行うことに合意し、業務提携契約(以下「本契約」)を締結しました。今後、さくらインターネット株式会社(以下「さくらインターネット」)が提供する GPU クラウドサービスを利用し、衛星画像の分析による気候予測や災害予測、農業に関するデータを掛け合わせることによる穀物収穫量予測などへの活用を目指します。本契約は、さくらインターネットとの業務提携に基づくビジネスモデル開発の第 1 号案件です。

Degas は、ガーナ共和国で、小規模農家向けに肥料などの農業資材を提供し、生産物の一部で現物返済される農家ファイナンス事業を展開しています。これまでに 65,000 軒以上(2024 年 8 月時点)の農家を支援し、アフリカ最大規模の農家ネットワークを構築しています。2023 年から開発に着手した地理空間基盤モデルは、森林や農地など分析対象の衛星画像を生成 AI に事前学習させることで、新しいデータを読み込ませた際に、学習内容を基に表地や土壌などを解析、予想します。農業や林業における基盤モデルの開発は、農地ごとの土壌成分値や作物収穫量など多くの教師データを必要とし、コストがかかることが課題でした。Degas の基盤モデルは最新の生成 AI を活用し、従来の 1 割程度のデータ量で高精度の分析を可能としたことで、費用対効果の改善が見込まれ、気候や災害、穀物収穫量の予測などへの普及が期待されています。

双日は、2024 年 3 月に締結したさくらインターネットとの業務提携契約に基づき、さくらインターネットの GPU クラウドサービスを Degas に提供します。双日がタイで手掛けるキャッサバ農家向けのアグリプラットフォーム事業にて、Degas の地理空間基盤モデルを活用し、農業分野におけるアプリケーションを開発することで、収量予測サービスや病害検知サービスとして活用予定です。

双日は、中期経営計画 2026 で「Digital in All」を掲げ、全事業へのデジタル活用を前提としたデジタル戦略を策定し、DX 施策を推進しています。今後も、AI を活用したビジネスモデルやユースケース開発に取り組み、さらなるデジタル活用と企業価値向上に努めていきます。



【Degas が農家ファイナンス事業で利用しているアプリイメージ】

(ご参考)

【Degas 社の概要】

会社名	Degas 株式会社
設立	2018 年 11 月 2 日
所在地	東京都渋谷区広尾四丁目1番18号
代表者	CEO 牧浦 土雅
主な事業内容	テクノロジーを使った小規模農家マネジメントを中心とした、アフリカ小規模農家のへのファイナンス、リジェネラティブ農業、高品質なカーボンクレジット創出、関連テクノロジーの開発

【関連ニュース】

2024 年 3 月 21 日 [双日とさくらインターネット、クラウド事業拡大のための業務提携契約を締結](#)